# 蒲原宿　江戸の香りが残る夢の宿場町を歩く ● 約3km

東海道二峠六宿は日本風景街道に登録されています

日本風景街道

江戸の宿場には、見附や木戸を設けて入口としていました。蒲原宿には、当時の町割と木戸の位置がしっかり残っています。木戸内(626間、約1.15ｋｍ)を、当時の宿場の面影を五感と創造力で歩くコースです。

## ❶東木戸・西木戸

宿場の治安維持と通行人の監視のため、宿場入口は夕刻に閉鎖し、朝方には開放していました。見付と呼ばれることが多いのですが、蒲原宿の場合、木戸と呼んでいます。

## ❷渡邊家 土蔵・文書 市指定文化財

静岡市指定文化財(土蔵と古文書3002点)

問屋職や郡中総代を代々務めた旧家で、木材を商っていた事から「木屋」という屋号でした。土蔵は、天保10年(1839年)に上棟したことが分かっており、四隅の柱が上にいくにつれて少しずつ狭まる「四方具(しほうよろび)」(四方転び)という耐震性に優れた技法で建築されています。三階建ての土蔵は珍しく、日本で5番目に古いもので、「木屋江戸資料館」となっています。

●雨天時は閉館

## ❸佐藤家

「佐野屋」という商家でした。壁が塗壁の「塗り家造り」の建物で、なまこ壁の白と黒のコントラストが装飾的で、重厚感にあふれています。

## ❹吉田家 国登録有形文化財

「僊菓堂」という屋号で和菓子を作る商家でした。なまこ壁の「塗り家造り」で、内部は柱がなく広々とした「店の間」で商家らしい雰囲気が残っています。

●塗り家造りとは

「土蔵造り」に比べて防火効果が大きく、昔から贅沢普請といわれています。もともとは城郭などに用いられた技術であり、一般には江戸時代末期以降に広まったと考えられており、町家に多く見られる造りです。

## 東海道は57次？

1601年、徳川家康公は江戸から京都までの宿駅制度を設けた時は、東海道の宿場は40ヵ所程でした。その後、1615年、豊臣家を滅亡させ、大阪までのルートを延伸させ、1624年、家光公の時代に江戸から京都までが53の宿場と大阪まで「伏見宿」「淀宿」「牧方宿」「守口宿」を入れて57の宿場で東海道としていたようです。


旧五十嵐歯科医院


約240年前の関所手形 志田邸

## ⓬旧五十嵐歯科医院

国登録有形文化財

町家を洋風に増改築した擬洋風建築と呼ばれる建物で、外観は洋風、内観は和風というユニークな建物です。当時の洋風建築としては珍しくガラス窓が多く、開放的で下見板の白いペンキがモダンな雰囲気を醸し出しています。水道がなかった時代、井戸水を二階の診療室まで通したポンプや配管も残っています。名医として知られ、宮内大臣だった田中光顕伯爵も患者の一人でした。

## ⓭志田邸 国登録有形文化財

屋号は「やま六」、醤油醸造を営む商家でした。安政の大地震後、安政２年(1855年)に建て直しされ、外観は切妻造平入瓦ぶきで、蔀戸(しとみど)のある町家です。江戸から昭和前期までの生活関連品も展示しています。

●10:00～15:00　●開館／土・日・祝日

●大人300円、小・中学生200円(NPO協力費として)

●蔀戸(しとみど)とは

平安時代の寝殿造りや神社の社殿などに見られる雨戸のようなものと考えてください。建物の柱と柱の間に取り付けられ、跳ね上げ式に開き、昼間は金具で上から持ち上げ、日除けとして使えます。

## ⓮増田家

町家に多く見られる伝統的な建築工法である格子戸が美しい建物です。

## ⓯木下家(旧岩邊家) 国登録有形文化財

岩邊家は宮内大臣を歴任し、政界に多大な影響力があった田中光顕伯爵の秘書をしていました。蒲原の青山荘に在住していた田中伯爵を訪れる要人を岩邊家が受け入れ、その後、田中伯爵と面談したそうです。戦後、旅行会社から依頼され、日本を訪れる外国人観光客の受け入れもしていました。

## ❺問屋場跡

問屋場とは、幕府の書状や荷物を次の宿場まで届ける飛脚業務、幕府の公用旅行者や参勤交代の大名の馬や人足の世話、旅人の宿泊、荷物の運搬手配など宿場の中枢でした。

## ❻蒲原夜の雪

蒲原宿を描いた「蒲原夜の雪」は、天才浮世絵師、歌川広重の傑作といわれ、昭和35年国際文通週間の切手に採用されています。

## ❼旅籠和泉屋・お休み処

国登録有形文化財

天保年間(1830～44年)の建物で、安政の大地震でも倒壊を免れたと言われています。二階の櫛形の手すりや看板掛け、柱から突き出た腕木などに江戸時代の上旅籠の面影をみることができます。

●9:30～16:30(11月～2月は16:00まで)

●休／月曜(祝日の場合翌日)、年末年始

## ❽本陣跡・佐藤家

蒲原宿の本陣は江戸時代の中頃までは、東本陣(多芸家)と西本陣(平岡家)の２家ありました。しかし18世紀中ごろ東本陣の多芸家が絶え、以来幕末まで平岡家が本陣をつとめていました。平岡家は明治11年に京都に移転しています。

現在の建物は大正時代のものですが、邸内には今も、大名の駕籠を置いたといわれる「御駕籠石」が残っています。

## ❾磯部家

明治42年(1909年)に建築された建物です。寺院建築に多く用いられた欅(けやき)を材とし、柱や梁から一枚板の戸袋に至るすべてが欅で、木目がみごとです。二階の窓ガラスは、100年前に手作りされたガラスで波打つような面がなんともいえない風情です。

## ❿高札跡

高札とは、幕府からの通達事項等を掲げる情報板で、辻札ともいわれました。宿場や村には必ず高札場が設けられ、人々に法令や定(賃金の改定なども含む)を周知させていました。

## ⓫御殿道の跡

家康公は、武田氏を滅ぼして帰る織田信長公を慰労するために「蒲原御殿」を建てました。その後、秀忠、家光により拡張されましたが、寛永11年(1634年)の家光上洛以降は使用されなくなりました。「御殿道」とは、御殿に食料などの生活用品を運ぶ湊からの直通の道です。ちなみに「御殿山」とは御殿で使用する薪や山菜をとる専用の山で一般の人は入ることができませんでした。